

観峰館所蔵封泥 (三)

瀬川敬也

本稿では、『観峰館紀要』第五・六号に引き続き観峰館所蔵封泥六十三点(目録番号97-0050-091) 97-0050-153)の写真(表面・裏面)および印面の拓本を収録し、印文の积文・注釈・サイズそして形状・特徴などのデータを附す。

【凡例】

番号 配列は観峰館の目録番号順とし、()内に目録番号を附す。

积文 印文の积文を記すが、欠損などによりまったく判読できない文字は□で、欠損などによりほとんど判読できないが、文字の一部の形や出土例から推定した文字は□内にそれぞれ記す。

注釈 相家巷封泥に同文の封泥がすでに出土しているか、また、印文の内容に該当する史書等の記事があるかを記す。

相家巷封泥の出土例は、『秦封泥集』『新出土秦代封泥印集』を参照。

サイズ 封泥および印面の各サイズは、それぞれ以下の基準で計測し、単位はミリメートルで記す。

封泥タテ 印文に対して垂直の最大幅。

封泥ヨコ 印文に対して水平の最大幅。

印面タテ 印面の天地の幅、ただし、境界が不明確なものは()付きで確認できる範囲の最大幅を記す。

印面ヨコ 印面の左右の幅、ただし、境界が不明確なものは()付きで確認できる範囲の最大幅を記す。

枠線タテ 印面の天地の枠線間の幅、ただし、枠線が不明確な場合は(―)と、枠線自体がない場合は(無)と記す。

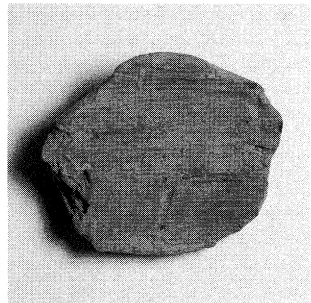
枠線ヨコ 印面の左右の枠線間の幅、ただし、枠線が不明確な場合は(―)と、枠線自体がない場合は(無)と記す。

封泥厚さ 印面と裏面の検もしくは簡との接触面の厚み。不規則にはみ出している部分は計測しない。

検・簡幅 封泥裏面にある検もしくは簡の痕跡の幅。ただし、痕跡が見えないか、もしくは計測不可能な場合は(―)と記す。

備考 その他各封泥の形状・特徴等の情報を記す。

91、(97-0050-091)



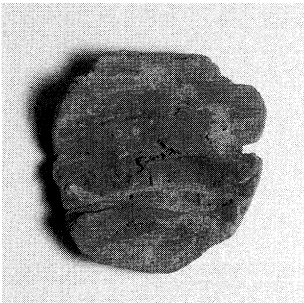
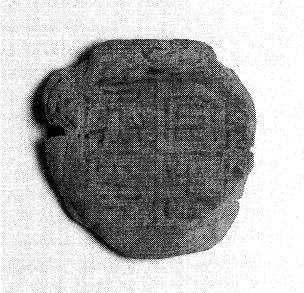
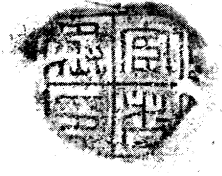
积文
少府国丞

注釈
97-0050-023参照

サイズ
封泥タテ 二六・〇、封泥ヨコ 三〇・五、印面タテ (一七・五)、印面ヨコ 一七・〇、枠線タテ (一)、枠線ヨコ 一五・〇、封泥厚さ 九・〇、検・簡幅 (一)

備考
不規則円餅形、枠線なし。印面左上から右下に線状の傷、裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

92、(97-0050-092)



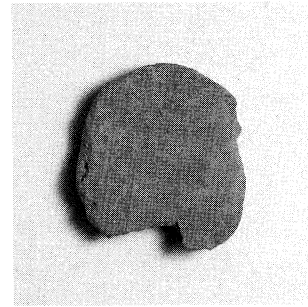
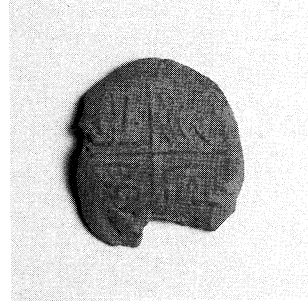
积文
宦者丞印

注釈
97-0050-021参照

サイズ
封泥タテ 二九・〇、封泥ヨコ 二八・〇、印面タテ 二一・五、印面ヨコ 二一・〇、枠線タテ 一九・五、枠線ヨコ 一八・五、封泥厚さ 五・〇、検・簡幅 (一)

備考
不規則円餅形、田字枠線。裏面一部欠損、裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。一部に焼け焦げたような痕跡。

93、(97-0050-093)



積文 池室之印

注釈

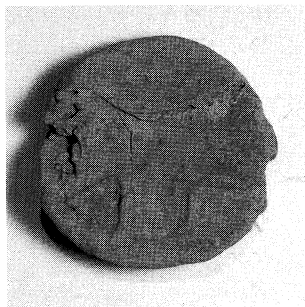
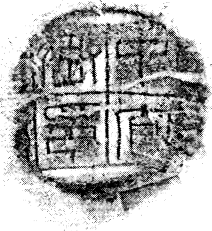
出土例あり。池室は未詳ながら、『漢書』百官公卿表に少府の属官として「上林中十池監」とみえ、あるいはこれに關する役所か。

サイズ

封泥タテ 二五・〇、封泥ヨコ 一二・〇、印面タテ (一八・〇)、印面ヨコ (二九・五)、枠線タテ (一)、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 六・〇、検・簡幅 (一) 不規則円餅形、田字枠線。下部欠損。裏面は平ら。

備考

94、(97-0050-094)



積文 中官丞印

注釈

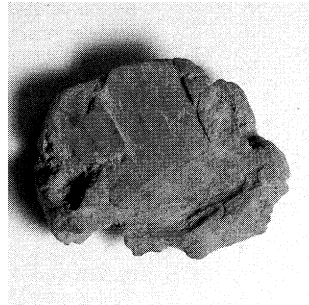
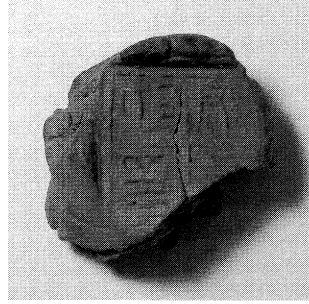
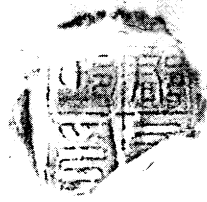
出土例あり。『国語』晋語四に「諸姬之良、掌其中官」とあり、韋昭は「中官、内官」と注す。ただ、封泥の官職名には別に内官もあり、両者が同一かどうかは疑問。むしろ『漢書』高后紀の「中官・宦者令丞、皆賜爵関内侯、食邑」に顔師古が「中官、凡闒人給事於中者皆是也」と注するように、宦官の役職で、丞はその副官であろう。

サイズ

封泥タテ 三〇・〇、封泥ヨコ 三二・〇、印面タテ 二二・五、印面ヨコ (二二・〇)、枠線タテ 一九・〇、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 一〇・五、検・簡幅 (一) 不規則円餅形、田字枠線。印面に亀裂。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

備考

95、
(97-0050-095)



積文 郡□邸印

注釈

文字の残欠部分と、すでに発見されている封泥の官職名とを勘案すれば、郡右邸印であろう。郡右邸印に関しては、

97-0050-004 参照

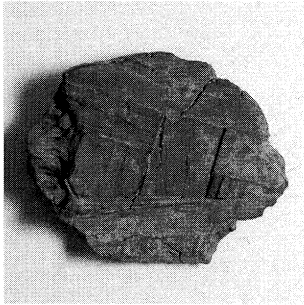
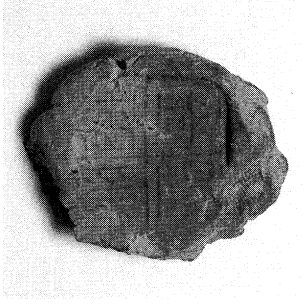
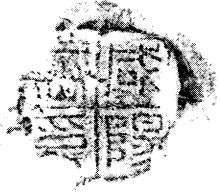
サイズ

封泥タテ 二八・五、封泥ヨコ 三一・〇、印面タテ (二・三・〇)、印面ヨコ (二二・〇)、枠線タテ 一八・五、枠線ヨコ 一九・〇、封泥厚さ 九・五、検・簡幅 一一・〇

備考

不規則円餅形、田字枠線。印面亀裂、右下部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

96、
(97-0050-096)



積文

注釈

咸陽丞印 出土例あり。咸陽は秦の国都。『史記』始皇本紀に「孝公十三年、始都咸陽」とある。『漢書』百官公卿表に、県令・長の下に丞が置かれたとする。

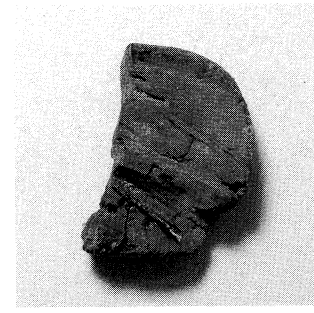
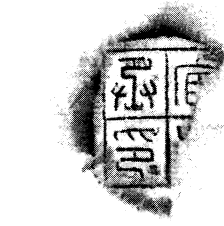
サイズ

封泥タテ 二八・〇、封泥ヨコ 三四・五、印面タテ (一九・五)、印面ヨコ (二二・〇)、枠線タテ (一)、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 七・〇、検・簡幅 八・五

備考

不規則円餅形、田字枠線。左下部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。一部焼け焦げたような痕跡。

97、(97-0050-097)



積文
宦□丞印

文字の残欠部分と、すでに発見されている封泥の官職名とを勘案すれば、宦者丞印であろう。宦者丞印に関しては、

97-0050-021参照。

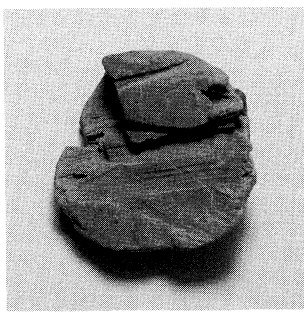
サイズ

封泥タテ 三〇・〇、封泥ヨコ 二二・五、印面タテ 二〇・五、印面ヨコ (二七・五)、枠線タテ 一八・五、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 五・〇、検・簡幅 (一)

備考

不規則円餅形、田字枠線。右側欠損、下部修復痕。裏面に木目とワラシベ状紐痕。一部に焼け焦げたような痕跡。

98、(97-0050-098)



積文
中官丞印

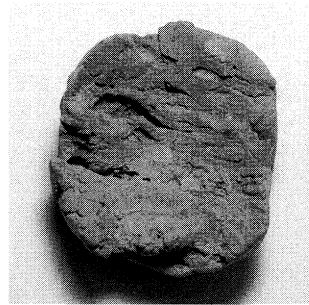
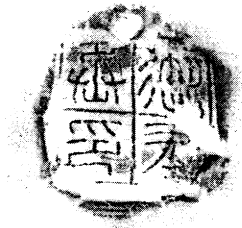
注釈
97-0050-094参照

サイズ

封泥タテ 二六・五、封泥ヨコ 二五・五、印面タテ (二九・〇)、印面ヨコ (二七・五)、枠線タテ (一)、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 九・〇、検・簡幅 九・五
不規則円餅形、田字枠線。右側欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

備考

99、(97-0050-099)



積文 御羞丞印

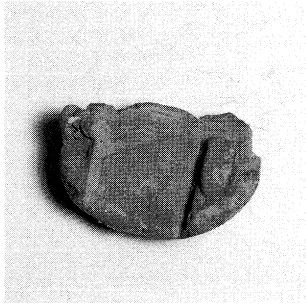
注釈 97-0050-033参照

サイズ

封泥タテ 三三・〇、封泥ヨコ 二九・〇、印面タテ 二二・〇、印面ヨコ 二二・〇、枠線タテ 二〇・〇、枠線ヨコ 二〇・〇、封泥厚さ 八・〇、検・簡幅 (―) 不規則円餅形、田字枠線。印面乾燥前に変形。裏面にワラシベ状紐痕。

備考

100、(97-0050-100)



積文 □厩□印

注釈

出土例から勘案すれば、御厩丞印・官厩丞印・章厩丞印・官厩丞印・泰厩丞印・中厩丞印・小厩丞印・左厩丞印・右厩丞印のいずれかであろうか。

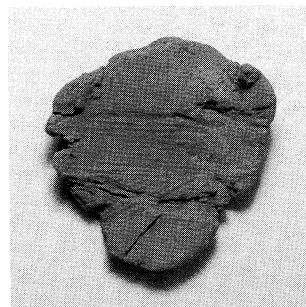
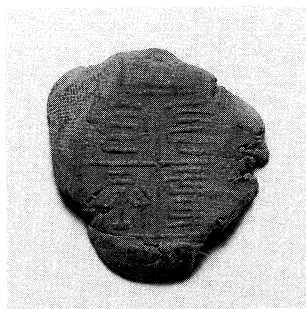
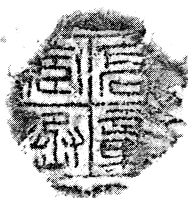
サイズ

封泥タテ 一九・〇、封泥ヨコ 二七・〇、印面タテ (一・二・五)、印面ヨコ (二〇・〇)、枠線タテ (―)、枠線ヨコ (―)、封泥厚さ 六・五、検・簡幅 一三・五

備考

不規則円餅形、田字枠線。中央より上部欠損、印面に乾燥前についた複数の線。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

101、(97-0050-101)



积文

高章宦丞

注釈

97-0050-026参照

サイズ

封泥タテ 三一・〇、封泥ヨコ 三〇・〇、印面タテ 二

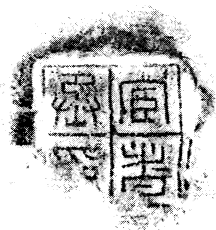
二・〇、印面ヨコ (二〇・〇)、枠線タテ 一九・〇、枠

線ヨコ (一)、封泥厚さ 五・五、検・簡幅 (一)

備考

不規則円餅形、田字枠線。右下部欠損、印面乾燥前に変形。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

102、(97-0050-102)



积文

宦者丞印

注釈

97-0050-021参照

サイズ

封泥タテ 二六・五、封泥ヨコ 三三・〇、印面タテ (二

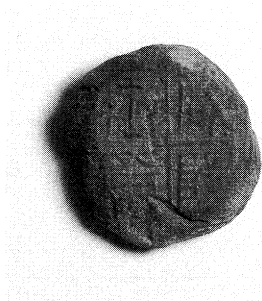
一・〇)、印面ヨコ 二二・五、枠線タテ (一)、枠線ヨ

コ 一八・五、封泥厚さ 七・五、検・簡幅 (一)

備考

不規則円餅形、田字枠線。下部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

103、
(97-0050-103)



釈文
咸陽丞印

注釈
97-0050-096参照

サイズ
封泥タテ 二七・〇、封泥ヨコ 二五・五、印面タテ (二

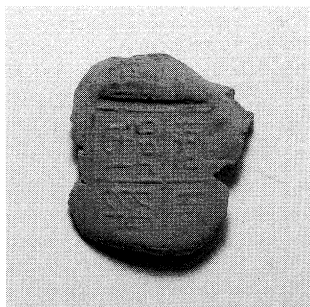
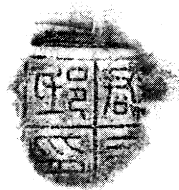
一・〇)、印面ヨコ (一九・〇)、枠線タテ (一)、枠線

ヨコ (一)、封泥厚さ 八・〇、検・簡幅 (一)

備考
不規則円餅形、田字枠線。印面に傷。裏面にワラシベ状紐

痕。全体に焼け焦げたような痕跡。

104、
(97-0050-104)



釈文
郡邸邸印

注釈
97-0050-004参照

サイズ
封泥タテ 二六・五、封泥ヨコ 二四・五、印面タテ (二

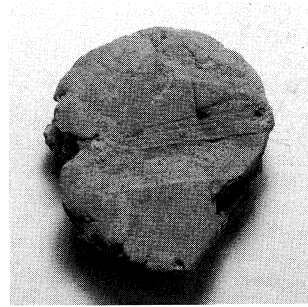
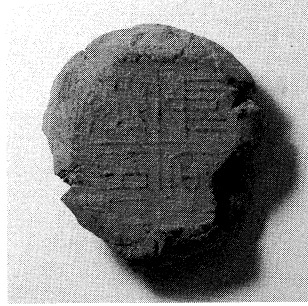
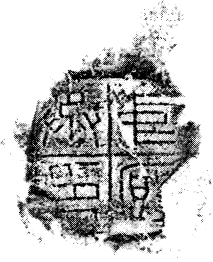
〇・〇)、印面ヨコ (一九・〇)、枠線タテ (一)、枠線

ヨコ (一)、封泥厚さ 六・〇、検・簡幅 (一)

備考
不規則円餅形、田字枠線。左右縁部欠損。裏面に木目とワ

ラシベ状紐痕。

105、
(97-0050-105)



積文
中厩丞印

注釈
97-0050-007参照

サイズ
封泥タテ 三・五、封泥ヨコ 三・〇、印面タテ 二

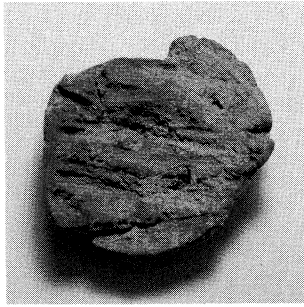
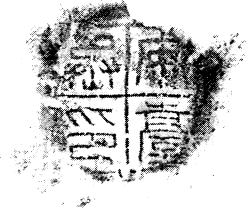
二・〇、印面ヨコ (二・〇)、枠線タテ (―)、枠線ヨ

コ (―)、封泥厚さ 一・〇、検・簡幅 一二・五

備考
不規則円餅形、田字枠線。左下部・右側欠損、印面乾燥前

に傷。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

106、
(97-0050-106)



積文
安臺丞印

注釈
97-0050-065参照

サイズ
封泥タテ 三・〇、封泥ヨコ 三・〇、印面タテ (二

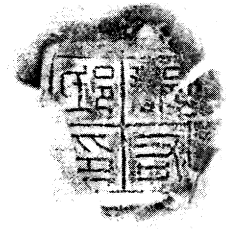
二・〇)、印面ヨコ (二・〇・五)、枠線タテ 二・〇・五、

枠線ヨコ (―)、封泥厚さ 六・五、検・簡幅 (―)

備考
不規則円餅形、田字枠線。右上・裏面一部欠損。裏面にワ

ラシベ状紐痕。

107、(97-0050-107)



積文 郡右邸印

注釈 97-0050-004参照

サイズ 封泥タテ 三五・五、封泥ヨコ 三一・五、印面タテ 二

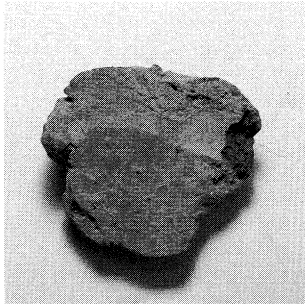
一・五、印面ヨコ (二〇・五)、枠線タテ 一八・〇、枠

線ヨコ 一九・〇、封泥厚さ 七・〇、検・簡幅 (一)

備考 不規則円餅形、田字枠線。左側欠損、印面乾燥前に変形。

裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。一部に焼け焦げたような痕跡。

108、(97-0050-108)



積文 國丞印

注釈 97-0050-013参照

サイズ 封泥タテ 二五・〇、封泥ヨコ 二八・五、印面タテ (一

九・五)、印面ヨコ (二〇・〇)、枠線タテ (一)、枠線

ヨコ (一)、封泥厚さ 六・五、検・簡幅 (一)

備考 不規則円餅形、田字枠線。印面一部・右側・裏面一部欠損。

裏面に木目とワラシベ状紐痕。

109、(97-0050-109)



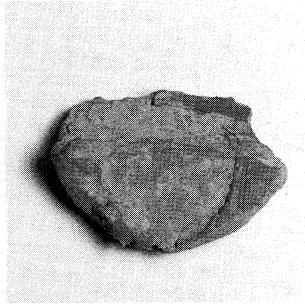
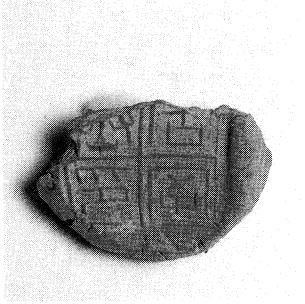
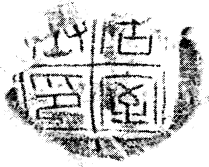
積文 宮園空丞

注釈 97-0050-003参照

サイズ 封泥タテ 二六・五、封泥ヨコ 二六・五、印面タテ (二一・〇)、印面ヨコ (二九・〇)、枠線タテ (―)、枠線ヨコ (―)、封泥厚さ 四・五、検・簡幅 一二・〇

備考 不規則円餅形、田字枠線。印面右下欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

110、(97-0050-110)



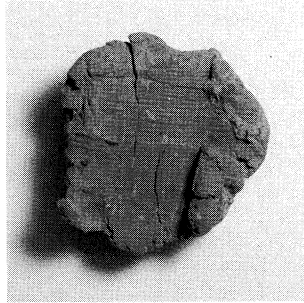
積文 園室丞印

注釈 97-0050-012参照

サイズ 封泥タテ 二二・五、封泥ヨコ 三一・〇、印面タテ (一七・〇)、印面ヨコ 二二・五、枠線タテ (―)、枠線ヨコ 二〇・〇、封泥厚さ 六・〇、検・簡幅 (―)

備考 不規則円餅形、田字枠線。上部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

111、(97-0050-111)



積文 中圜丞印

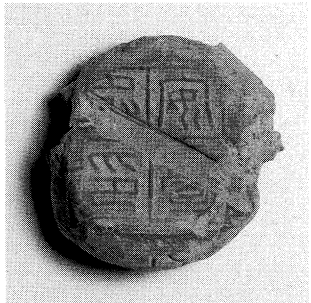
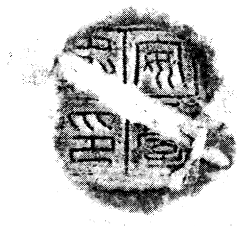
注釈 出土例あり。『漢書』東方朔伝で顔師古は「中府、掌金帛之臧者也」と注す。

サイズ 封泥タテ 二八・五、封泥ヨコ 二七・五、印面タテ 一

九・〇、印面ヨコ (一八・〇)、枠線タテ 一七・〇、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 七・五、検・簡幅 一〇・〇

備考 不規則円餅形、口字枠線。「中」字を「中」とする。印面一部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

112、(97-0050-112)



積文 安臺丞印

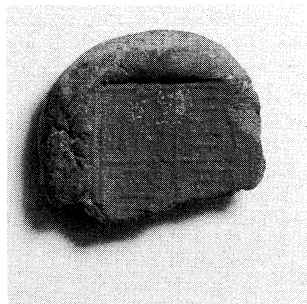
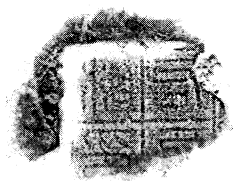
注釈 97-0050-065参照

サイズ 封泥タテ 三〇・五、封泥ヨコ 二九・〇、印面タテ (二

二・〇)、印面ヨコ (二〇・〇)、枠線タテ 二〇・〇、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 九・五、検・簡幅 一五・〇

備考 不規則円餅形、田字枠線。印面乾燥前に傷、右側・裏面一部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

113、(97-0050-113)



積文 右圜印

注釈

出土例あり。『漢書』百官公卿表に「相国・丞相、皆秦官、金印紫綬、掌丞天子助理万機、秦有左右」とある。

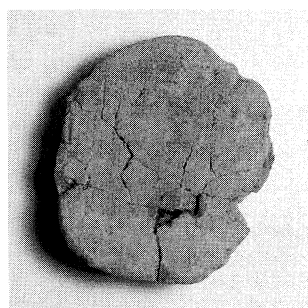
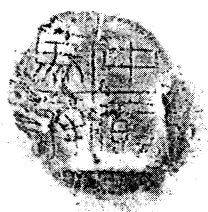
サイズ

封泥タテ 二・五・五、封泥ヨコ 二・九・五、印面タテ (一・八・五)、印面ヨコ (二・二・五)、枠線タテ (一)、枠線ヨコ 二・〇・〇、封泥厚さ 一・〇・五、検・簡幅 (一)

備考

不規則円餅形、田字枠線。下部・裏面一部欠損。裏面に木目と紐痕。全体に焼け焦げたような痕跡。

114、(97-0050-114)



積文

中園馬印

注釈

出土例あり。中既に関しては、97-0050-007参照。馬府は未詳。

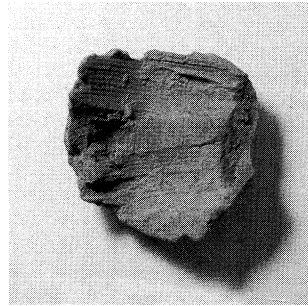
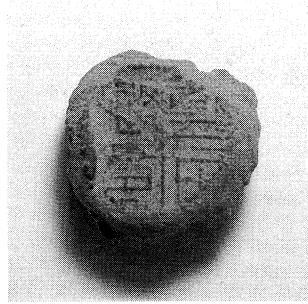
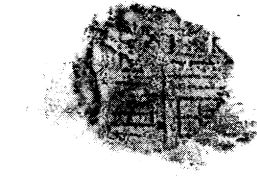
サイズ

封泥タテ 三・二・五、封泥ヨコ 二・八・五、印面タテ (二・〇・〇)、印面ヨコ (二・二・〇)、枠線タテ (一)、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 八・五、検・簡幅 (一)

備考

不規則円餅形、田字枠線。左側欠損、下部に修復痕。裏面全面に平らな木目。

115、(97-0050-115)



積文 □田函印

文字の残欠部分と、すでに発見されている封泥の官職名とを勘案すれば、藍田丞印であろうか。藍田は県名。藍田丞は藍田県令の副官である藍田県丞のことであろう。

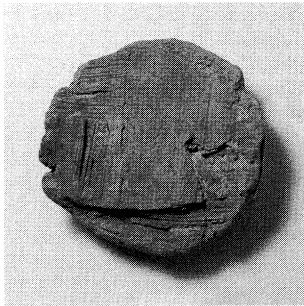
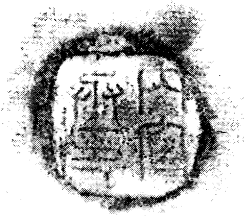
サイズ

封泥タテ 二四・五、封泥ヨコ 二五・五、印面タテ (一九・五)、印面ヨコ (二七・五)、枠線タテ (一)、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 七・〇、検・簡幅 (一)

備考

不規則円餅形、田字枠線。裏面一部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

116、(97-0050-116)



積文 内官丞印

注釈 97-0050-002参照

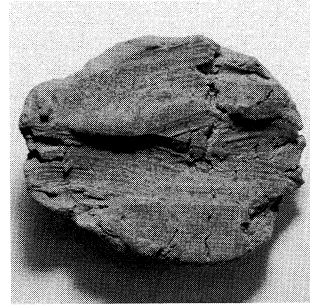
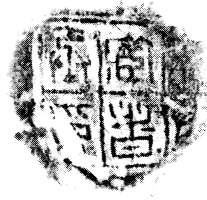
サイズ

封泥タテ 二八・〇、封泥ヨコ 二九・〇、印面タテ 一九・〇、印面ヨコ 一九・五、枠線タテ (無)、枠線ヨコ (無)、封泥厚さ 七・五、検・簡幅 一一・〇

備考

不規則円餅形、枠線なし。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

117、(97-0050-117)



积文 宦者丞印

注釈 97-0050-021参照

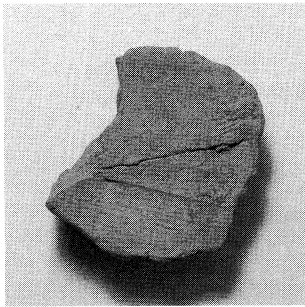
サイズ 封泥タテ 三一・五、封泥ヨコ 三五・〇、印面タテ 二

二・〇、印面ヨコ 一九・五、枠線タテ 一九・五、枠線

ヨコ 一七・〇、封泥厚さ 九・五、検・簡幅 (↑)

備考 不規則円餅形、田字枠線。印面乾燥前に変形。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

118、(97-0050-118)



积文 泰園丞印

注釈 出土例あり。泰倉は太倉。『漢書』百官公卿表に、秦官では治粟内史の属官に太倉があり、令・丞が置かれたとある。

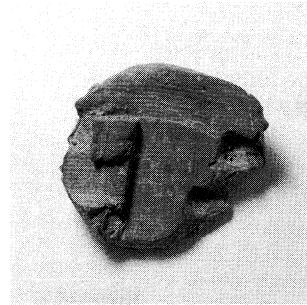
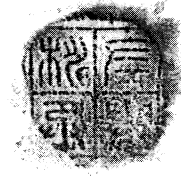
サイズ 封泥タテ 二八・五、封泥ヨコ 二六・〇、印面タテ (一

九・五)、印面ヨコ (一九・〇)、枠線タテ (↑)、枠線

ヨコ (↑)、封泥厚さ 九・〇、検・簡幅 (↑)

備考 不規則円餅形、田字枠線。右側欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

119、(97-0050-119)



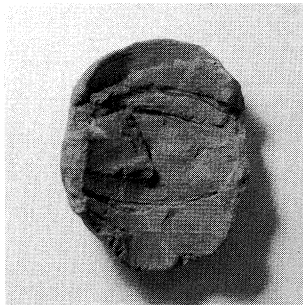
積文 左□桃丞

注釈 文字の残欠部分と、すでに発見されている封泥の官職名とを勘案すれば、左畧桃丞であろう。史書に記載なし。

サイズ 封泥タテ 二五・〇、封泥ヨコ 二六・〇、印面タテ (二一・〇)、印面ヨコ 二〇・〇、枠線タテ 一八・〇、枠線ヨコ 一八・〇、封泥厚さ 九・五、検・簡幅 一一・〇

備考 不規則円餅形、田字枠線。左下部・裏面一部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕。一部焼け焦げたような痕跡

120、(97-0050-120)



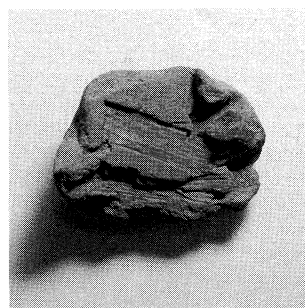
積文 圓丘丞印

注釈 出土例あり。廃丘は県名。『漢書』地理志に「周曰大丘、懿王都之。秦更名廃丘、高祖三年更名」とある。廃丘丞は廃丘県令の副官である廃丘県丞のことであろう。

サイズ 封泥タテ 三〇・〇、封泥ヨコ 二四・〇、印面タテ 二一・〇、印面ヨコ (二八・〇)、枠線タテ 二〇・〇、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 七・〇、検・簡幅 (一)

備考 不規則円餅形、田字枠線。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

121、(97-0050-121)



积文

高章官丞

注积

97-0050-026参照

サイズ

封泥タテ 二二・〇、封泥ヨコ 二七・五、印面タテ (一

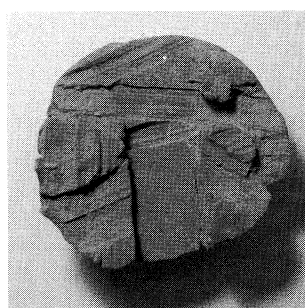
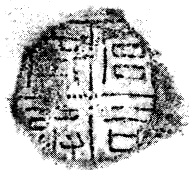
四・五)、印面ヨコ (二二・〇)、枠線タテ (↓)、枠線

ヨコ (↓)、封泥厚さ 七・五、検・簡幅 (↓)

備考

不規則円餅形、田字枠線。下部欠損。裏面に木目とワラシ
ベ状紐痕、紐の通った穴。

122、(97-0050-122)



积文

宮司空丞

注积

97-0050-003参照

サイズ

封泥タテ 二九・〇、封泥ヨコ 三二・五、印面タテ (一

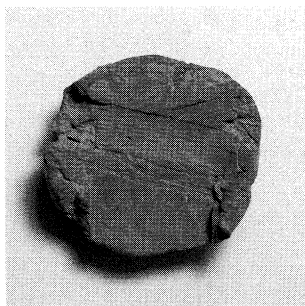
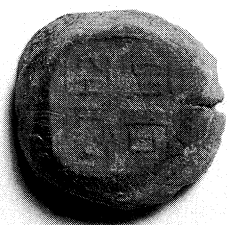
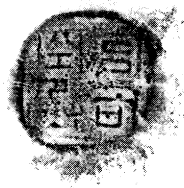
九・五)、印面ヨコ (二九・五)、枠線タテ (↓)、枠線

ヨコ (↓)、封泥厚さ 八・〇、検・簡幅 九・五

備考

不規則円餅形、田字枠線。左下欠損。裏面に木目とワラシ
ベ状紐痕、紐の通った穴。

123、(97-0050-123)



積文 宮司空丞

注釈 97-0050-003参照

サイズ 封泥タテ 二六・〇、封泥ヨコ 二七・〇、印面タテ (二

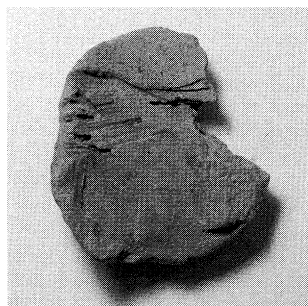
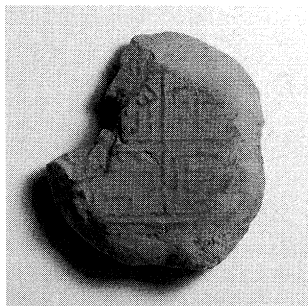
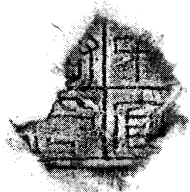
七・五)、印面ヨコ (一八・〇)、枠線タテ (無)、枠線

ヨコ (無)、封泥厚さ 七・五、検・簡幅 一五・五

備考 不規則円餅形、枠線なし。裏面に木目とワラシベ状紐痕、

紐の通った穴。

124、(97-0050-124)



積文 中官丞印

注釈 97-0050-094参照

サイズ 封泥タテ 三一・〇、封泥ヨコ 二九・〇、印面タテ (二

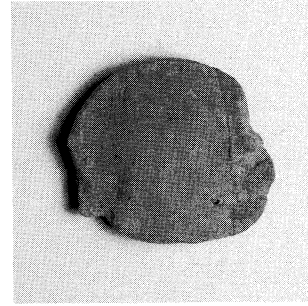
〇・五)、印面ヨコ (二〇・〇)、枠線タテ 一九・〇、

枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 九・〇、検・簡幅 一六・〇

備考 不規則円餅形、田字枠線。左肩部欠損。裏面に木目とワラ

シベ状紐痕、紐の通った穴。

125、
(97-0050-125)



積文
華陽丞印

注釈
出土例あり。華陽は華山の南を指す地名であろうか。

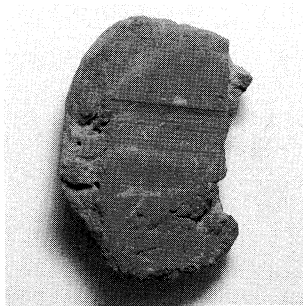
サイズ
封泥タテ 二四・〇、封泥ヨコ 二六・〇、印面タテ (一

八・〇)、印面ヨコ (二六・五)、枠線タテ 一八・〇、

枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 七・五、検・簡幅 (一)

備考
不規則円餅形、田字枠線。印面一部欠損。裏面に木目痕。

126、
(97-0050-126)



積文
小厩丞印

注釈
出土例あり。小厩は史書に記載がないが、97-0050

1007の中厩から類推して、太僕の属官であった可能性
がある。

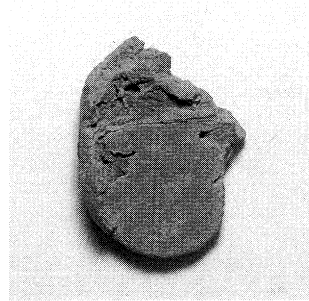
サイズ
封泥タテ 三四・〇、封泥ヨコ 二五・〇、印面タテ 二

一・五、印面ヨコ (一九・五)、枠線タテ 一九・〇、枠
線ヨコ (一)、封泥厚さ 九・〇、検・簡幅 (一)

備考
不規則円餅形、田字枠線。左側欠損。裏面に木目とワラシ

ベ状紐痕、紐の通った穴。一部に焼け焦げたような痕跡。

127、(97-0050-127)



積文 郎中丞印
出土例あり。『漢書』百官公卿表に「郎中令、秦官、掌宮殿掖門戶、有丞」とある。

サイズ 封泥タテ 二九・〇、封泥ヨコ 二二・〇、印面タテ (二七・五)、印面ヨコ (二七・〇)、枠線タテ 一七・〇、枠線ヨコ 一七・〇、封泥厚さ 四・〇、検・簡幅 一六・〇

備考 不規則円餅形、田字枠線。左肩部・左下部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

128、(97-0050-128)



積文 四官丞印

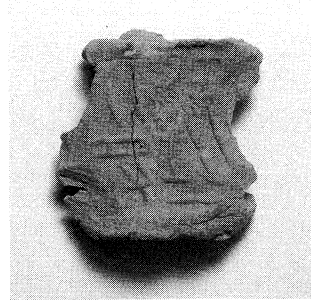
注釈 97-0050-002参照

サイズ 封泥タテ 三二・〇、封泥ヨコ 一九・〇、印面タテ 一八・〇、印面ヨコ 一六・五、枠線タテ (無)、枠線ヨコ (無)、封泥厚さ 七・五、検・簡幅 (一)

備考 不規則円餅形、枠線なし。右側欠損、印面乾燥前に変形。

裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

129、(97-0050-129)



积文

注釈

サイズ

備考

□□□丞
判読不能

封泥タテ 二六・五、封泥ヨコ 二七・〇、印面タテ 二二・〇、印面ヨコ (一九・〇)、枠線タテ (無)、枠線ヨコ (無)、封泥厚さ 九・五、検・簡幅 (一)

本封泥は他と異なり、天地が型に入れられたように平行直線であり、裏面にも長方形の突起がみえることから、漢代の凹式検を用いたものようである。紐痕もワラシベ状ではなく、撚り紐のようである。

130、(97-0050-130)



积文

注釈

サイズ

備考

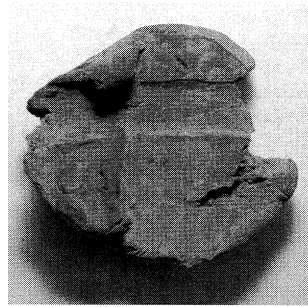
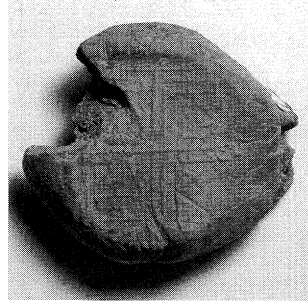
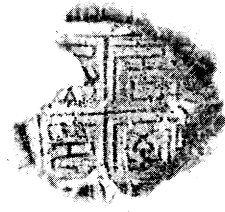
□□丞印

文字の残欠部分と、すでに発見されている封泥の官職名とを勘案すれば、中厩丞印・中府丞印・中官丞印のいずれかであろうか。

封泥タテ 三〇・〇、封泥ヨコ 二〇・五、印面タテ 二〇・五、印面ヨコ (二四・〇)、枠線タテ 一九・〇、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 九・〇、検・簡幅 (一)

不規則円餅形、田字枠線。右側欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

131、
(97-0050-131)



积文 居室園印

注釈 97-0050-012参照

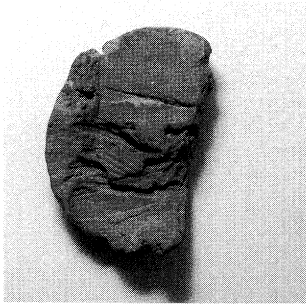
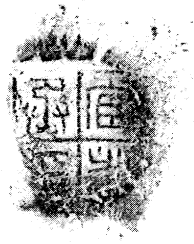
サイズ

封泥タテ 三一・〇、封泥ヨコ 三六・〇、印面タテ 二一・〇、印面ヨコ 二〇・〇、枠線タテ 一九・五、枠線ヨコ 一八・五、封泥厚さ 八・五、検・簡幅 一六・五

備考

不規則円餅形、田字枠線。左肩部欠損、印面に乾燥前の傷。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

132、
(97-0050-132)



积文

宦園丞印

注釈 97-0050-021参照

サイズ

封泥タテ 三〇・〇、封泥ヨコ 二二・五、印面タテ 一七・〇、印面ヨコ 一六・五、枠線タテ 一、枠線ヨコ 一、封泥厚さ 七・五、検・簡幅 一

備考

不規則円餅形、田字枠線。左側欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

133、
(97-0050-133)



积文
郡圀邸印

注釈
97-0050-004参照

サイズ
封泥タテ 二九・〇、封泥ヨコ 二九・〇、印面タテ (二七・五)、印面ヨコ (二〇・〇)、枠線タテ (一)、枠線

ヨコ (一)、封泥厚さ 八・〇、検・簡幅 一〇・〇

備考
不規則円餅形、田字枠線。裏面一部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

134、
(97-0050-134)



积文
園臺丞印

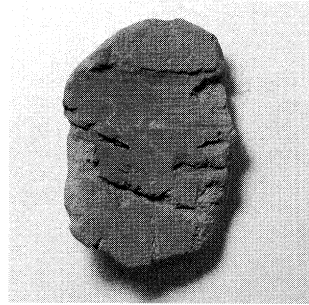
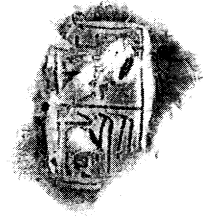
注釈
97-0050-065参照

サイズ
封泥タテ 三一・〇、封泥ヨコ 三三・〇、印面タテ (二〇・〇)、印面ヨコ 二一・〇、枠線タテ 一九・〇、枠

線ヨコ 一九・〇、封泥厚さ 八・〇、検・簡幅 (一)

備考
不規則円餅形、田字枠線。右肩部・裏面一部欠損、印面に乾燥前についた傷。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

135、
(97-0050-135)



積文
團込

注釈 出土例あり。寺込については、97-0050-013参

照。

サイズ 封泥タテ 三三・〇、封泥ヨコ 二二・五、印面タテ 二

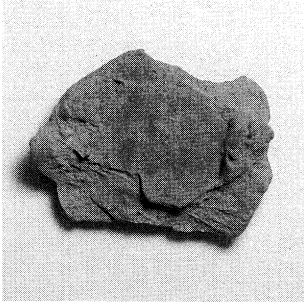
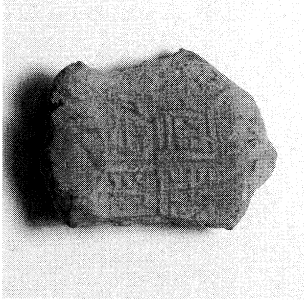
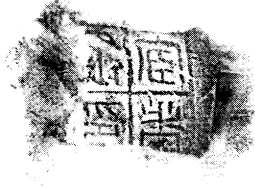
三・〇、印面ヨコ 一四・〇、枠線タテ 二一・〇、枠線

ヨコ 一一・五、封泥厚さ 七・〇、検・簡幅 (一)

備考

不規則円餅形、日字枠線半通印。印面乾燥前に変形。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

136、
(97-0050-136)



積文
宦者丞印

注釈 97-0050-021参照

サイズ 封泥タテ 二四・〇、封泥ヨコ 三三・〇、印面タテ (二

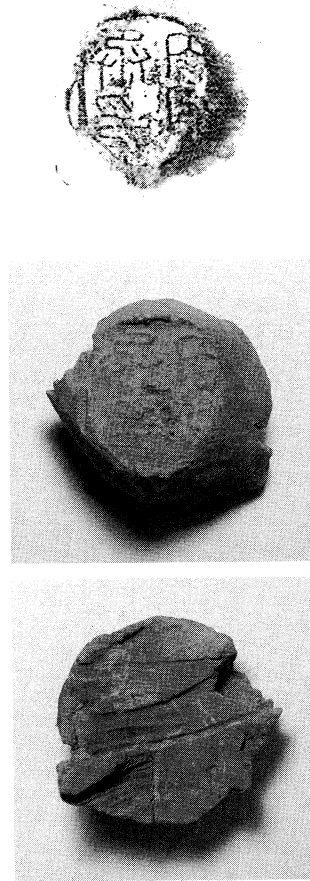
二・〇)、印面ヨコ (一五・五)、枠線タテ (一)、枠線

ヨコ 一六・〇、封泥厚さ 六・五、検・簡幅 一六・五

備考

不規則円餅形、田字枠線。上部・下部欠損、印面乾燥前に変形。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

137、
(97-0050-137)



内□丞印

釈文

文字の残欠部分と、すでに発見されている封泥の官職名とを勘案すれば、内官丞印であろうか。内官丞印に関しては、

97-0050-002参照。

サイズ

封泥タテ 二七・〇、封泥ヨコ 二九・〇、印面タテ (二〇・〇)、印面ヨコ (二七・〇)、枠線タテ (無)、枠線

備考

ヨコ (無)、封泥厚さ 九・〇、検・簡幅 一〇・〇
不規則円餅形、枠線なし。左肩部・印面一部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。一部焼け焦げたよ

うな痕跡。

138、
(97-0050-138)



釈文

注釈

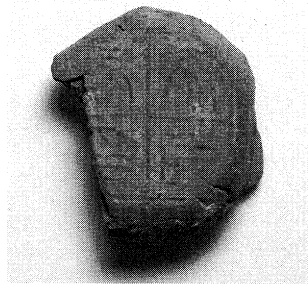
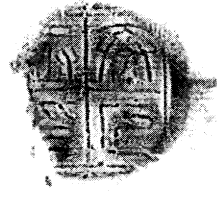
サイズ

97-0050-004参照
封泥タテ 三六・五、封泥ヨコ 三四・五、印面タテ 二

備考

一・五、印面ヨコ 二二・〇、枠線タテ 一九・〇、枠線
ヨコ 一九・〇、封泥厚さ 八・五、検・簡幅 九・〇
不規則円餅形、田字枠線。裏面に木目とワラシベ状紐痕、
紐の通った穴。

139、
(97-0050-139)



釈文 秦匠丞印

注釈 97-0050-016参照

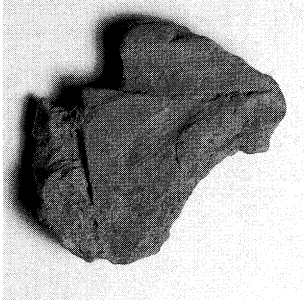
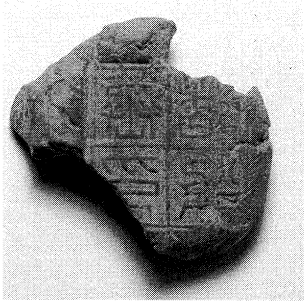
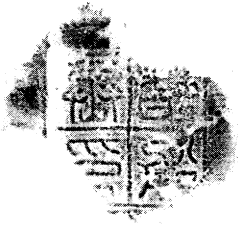
サイズ 封泥タテ 三〇・五、封泥ヨコ 二八・〇、印面タテ 二

二・五、印面ヨコ (二〇・〇)、枠線タテ 二〇・〇、枠

線ヨコ (一)、封泥厚さ 八・〇、検・簡幅 一三・〇

備考 不規則円餅形、田字枠線。左側欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。一部に焼け焦げたような痕跡。

140、
(97-0050-140)



釈文 都船丞印

注釈 出土例あり。『漢書』百官公卿表に、秦官では中尉の属官

に都船があり、三丞が置かれたとある。また如淳は「都船

獄令、治水官也」と注す。

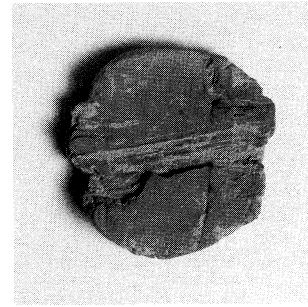
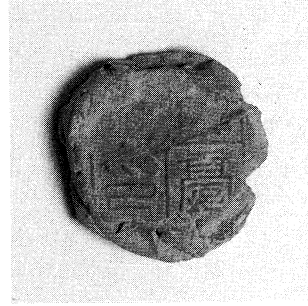
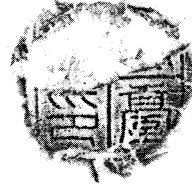
サイズ 封泥タテ 三〇・五、封泥ヨコ 二四・〇、印面タテ 二

二・〇、印面ヨコ 二二・五、枠線タテ 二〇・〇、枠線

ヨコ 二〇・〇、封泥厚さ 九・〇、検・簡幅 (一)

備考 不規則円餅形、田字枠線。右肩部・左下部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

141、(97-0050-141)



积文 □臺□印

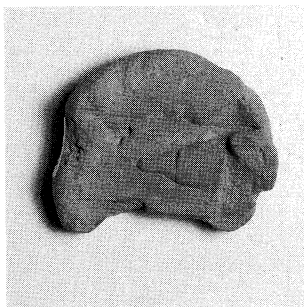
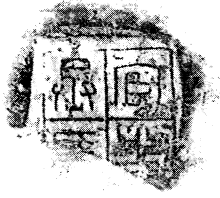
すでに発見されている封泥の官職名を勘案すれば、安臺丞印であろうか。安臺丞印に関しては、97-0050-065参照。

65参照。

サイズ 封泥タテ 二八・〇、封泥ヨコ 二七・五、印面タテ (一六・〇)、印面ヨコ (二二・〇)、枠線タテ (一)、枠線ヨコ 二〇・〇、封泥厚さ 七・〇、検・簡幅 一三・〇

備考 不規則円餅形、田字枠線。上部・印面上半分欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。一部に焼け焦げたような痕跡。

142、(97-0050-142)



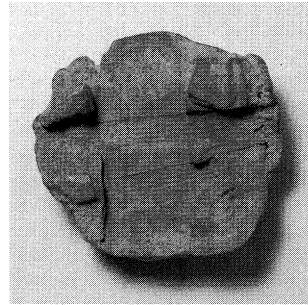
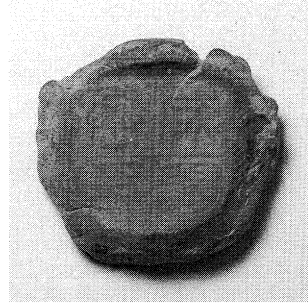
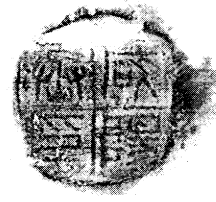
积文 宦園丞印

注釈 97-0050-021参照

サイズ 封泥タテ 二七・〇、封泥ヨコ 二八・五、印面タテ (一九・五)、印面ヨコ 二〇・五、枠線タテ (一)、枠線ヨコ 一八・〇、封泥厚さ 七・〇、検・簡幅 (一)

備考 不規則円餅形、田字枠線。下部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

143、(97-0050-143)



积文 咸陽丞印

注釈 97-0050-096参照

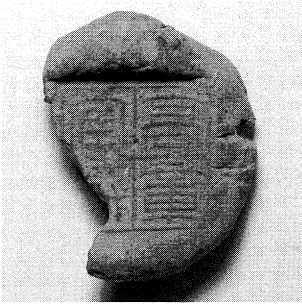
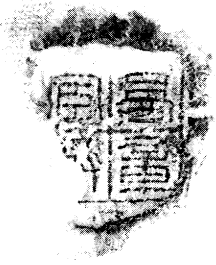
サイズ 封泥タテ 三〇・〇、封泥ヨコ 三二・〇、印面タテ (二

一・五)、印面ヨコ (二二・〇)、枠線タテ (一)、枠線

ヨコ (一)、封泥厚さ 八・五、検・簡幅 一〇・〇

備考 不規則円餅形、田字枠線。印面上部に亀裂。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

144、(97-0050-144)



积文 高章宦印

注釈 97-0050-026参照

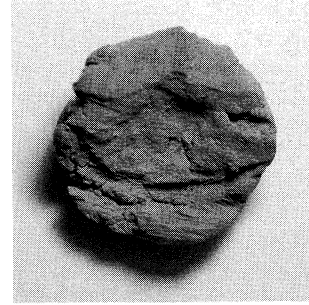
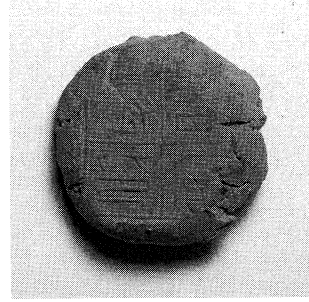
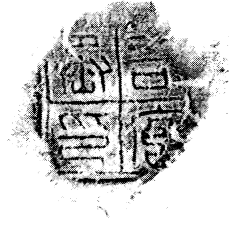
サイズ 封泥タテ 三四・五、封泥ヨコ 二七・五、印面タテ 二

二・五、印面ヨコ 二二・五、枠線タテ 一九・〇、枠線

ヨコ 一九・〇、封泥厚さ 九・〇、検・簡幅 (一)

備考 不規則円餅形、田字枠線。左側欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

145、
(97-0050-145)



右
厩
丞
印

出土例あり。右厩は史書に記載がないが、97-0050-1007の中厩から類推して、大僕の属官であった可能性がある。

積文

封泥タテ 二七・五、封泥ヨコ 二八・〇、印面タテ (二

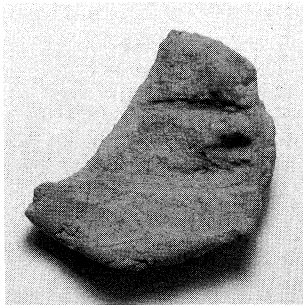
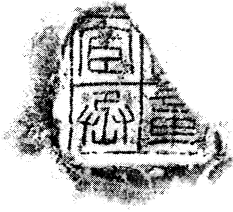
一・五)、印面ヨコ (二〇・五)、枠線タテ (一)、枠線

ヨコ (一)、封泥厚さ 一〇・〇、検・簡幅 (一)

備考

不規則円餅形、田字枠線。印面に右下部に亀裂、裏面一部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

146、
(97-0050-146)



右
章
宦
丞

文字の残欠部分と、すでに発見されている封泥の官職名とを勘案すれば、高章宦丞であろう。高章宦丞に関しては、

97-0050-026参照。

積文

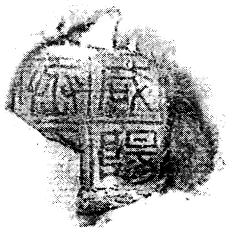
封泥タテ 三一・五、封泥ヨコ 三二・〇、印面タテ 二

一・五、印面ヨコ 二一・五、枠線タテ 一八・五、枠線

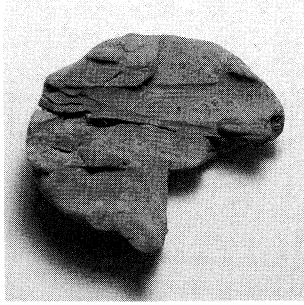
ヨコ 一八・五、封泥厚さ 八・〇、検・簡幅 (一)

備考

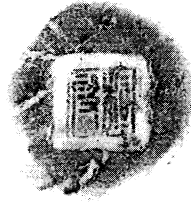
不規則円餅形、田字枠線。右側下半分より上欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕。



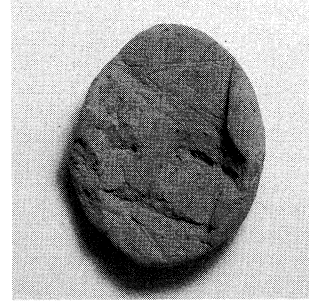
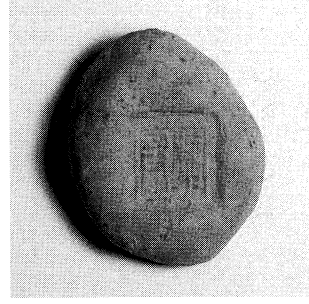
148、
(97-0050-148)



积文 咸陽丞印
 注釈 97-0050-096参照
 サイズ 封泥タテ 二八・〇、封泥ヨコ 三一・五、印面タテ (一
 九・五)、印面ヨコ (二〇・五)、枠線タテ (一)、枠線
 ヨコ (一)、封泥厚さ 八・五、検・簡幅 九・〇
 備考 不規則円餅形、田字枠線。左下部・下縁部欠損。裏面に木
 目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

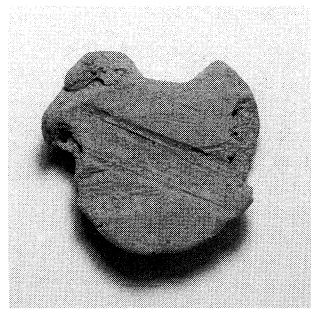
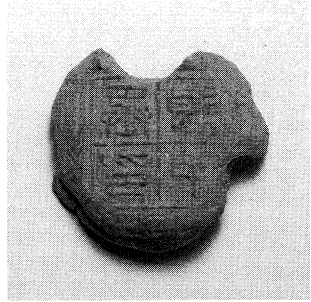
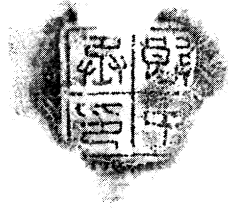


147、
(97-0050-147)



积文 桓段
 注釈 97-0050-038参照
 サイズ 封泥タテ 三一・五、封泥ヨコ 二六・〇、印面タテ 一
 三・〇、印面ヨコ 一三・〇、枠線タテ 九・〇、枠線ヨ
 コ 九・〇、封泥厚さ 七・〇、検・簡幅 (一)
 備考 不規則円餅形、口字枠線。裏面一部欠損。裏面に纖維状の
 細い痕。

149、(97-0050-149)



積文 郎中丞印

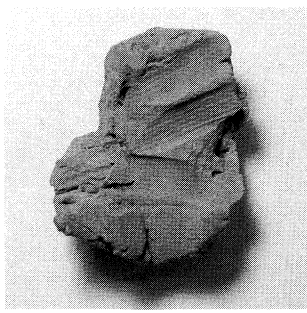
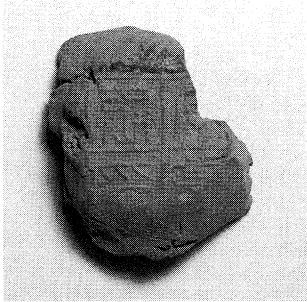
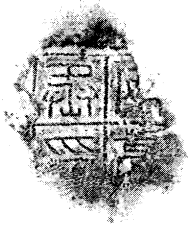
注釈 97-0050-127参照

サイズ

封泥タテ 二七・〇、封泥ヨコ 二九・〇、印面タテ 一九・〇、印面ヨコ (二七・〇)、枠線タテ 一七・五、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 七・〇、検・簡幅 (一) 不規則円餅形、田字枠線。上部・右下部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

備考

150、(97-0050-150)



積文 圀園丞印

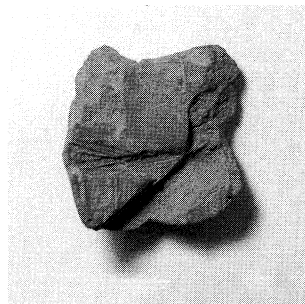
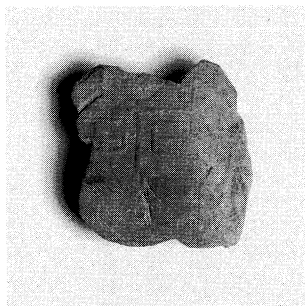
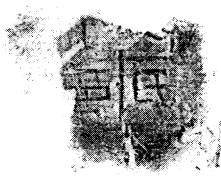
注釈 97-0050-065参照

サイズ

封泥タテ 三一・〇、封泥ヨコ 二六・〇、印面タテ (一六・五)、印面ヨコ (一七・〇)、枠線タテ (一)、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 一〇・〇、検・簡幅 (一) 不規則円餅形、田字枠線。右肩部・左縁部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

備考

151、(97-0050-151)



積文

□氏□固

文字の残欠部分と、すでに発見されている封泥の官職名とを勘案すれば、緱氏丞印あるいは盧氏丞印であろうか。『漢書』地理志によれば、緱氏・盧氏はいずれも県名。

注釈

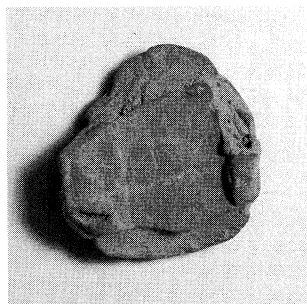
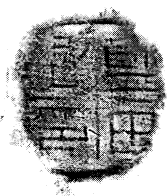
サイズ

封泥タテ 二・四・五、封泥ヨコ 二・二・五、印面タテ (一・二・〇)、印面ヨコ (一・四・〇)、枠線タテ (一)、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 七・五、検・簡幅 (一)

備考

不規則円餅形、田字枠線。上部・左側欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。

152、(97-0050-152)



積文

田丞印

注釈

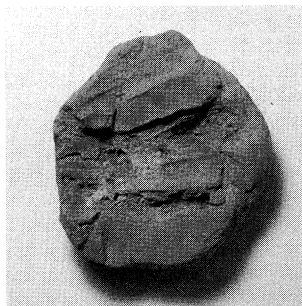
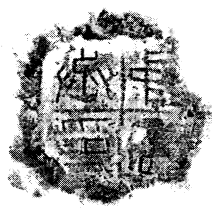
97-0050-115参照

サイズ

封泥タテ 二・八・〇、封泥ヨコ 二・六・五、印面タテ 二・〇・〇、印面ヨコ (一・八・〇)、枠線タテ (一)、枠線ヨコ (一)、封泥厚さ 七・〇、検・簡幅 一・三・五

備考

不規則円餅形、田字枠線。右肩部・裏面一部欠損。裏面に木目とワラシベ状紐痕、紐の通った穴。



積文 中園丞印

注釈 97-0050-007参照

サイズ 封泥タテ 三一・五、封泥ヨコ 二八・五、印面タテ (二

〇・〇)、印面ヨコ (二九・五)、枠線タテ (―)、枠線

ヨコ (―)、封泥厚さ 一〇・〇、検・簡幅 (―)

備考 不規則円餅形、田字枠線。裏面に木目とワラシベ状紐痕。

結語にかえて

以上、三回にわたり観峰館所蔵封泥百五十三点すべてを紹介した。それらの内わけは表の通りである。以下では、これら所蔵封泥に対して、『観峰館紀要』第五号で提示した秦封泥の指標となる①印面の内容、②印文の字体などの特徴、③封泥の形状の三項目の特徴を当てはめ、はたして秦封泥と判断できるかどうか、また相家巷封泥と同一群に属するものといえるかどうかを考察し、本稿の結語にかえたい。

①印面の内容

まず、所蔵封泥で印面の内容が確認できたものは四十五種類百三十五点あり、その大部分は印面が完全か、比較的欠損が少なく、印文のみを手がかりに判読できるものであったが、それらは現在までに報告されている秦封

泥の印文内容と矛盾なく合致した。また一部には、欠損状況により印面のみからの判読が困難な文字を含んでいるものもあり、そのような場合は文字の残欠部分を別の所蔵封泥や、すでに公開されている秦封泥の写真・拓本と照らし合わせることによって文字を特定したが、それとても明らか部分的一致点が確認できたものばかりである。

ただ、印面の欠損状況がひどく、まったく判読できない文字を含んでいるため印文が特定できないものが十六種十八点存在するが、辛うじて一文字のみ判読できた97-0050-017と97-0050-129の二点を除くほかは、解読可能な部分のみを比較したとしても、秦封泥と明らかに矛盾するものは含まれていなかった。

②印文の字体などの特徴

判読可能な所蔵封泥の字体は、みな所謂小篆であり、すでに公開されている秦封泥の写真・拓本と照らし合わせても、その字形・線質・風格に明らかに共通するものが見出せる。また、「太」字を「泰」字とするなどの点や、文字が「田」字形や「日」字形などの枠線で囲まれている点も報告されている研究結果に合致している。ただ、なかには「少府工丞」や「内官丞印」のように枠線をともなわない例も散見するが、それらはすでに公開されている秦封泥にも共通していることである。その他印文配列に関しても、印面の内容で確認したとおり矛盾はない。なお以上の点は、先に①であげた印文を特定できない十六種十八点のうち97-0050-017と97-0050-129を除くものにも当てはまる事柄である。

③封泥の形状

所蔵封泥の形状は、二点を除いてすべて不規則な円餅状を呈しており、秦封泥の特徴と符合している。例外の二点とは、①・②であげた印文を特定できない十六種十八点のうちの97-0050-017と97-0050-129であるが、その形状は方形もしくは二辺が平衡直線を呈しており、漢代以降に用いられる凹式検に粘土を充填したもののようで、秦封泥の特徴から外れている。

所蔵封泥の多くには、裏面に簡もしくは検の木目らしきものと、平たいワラシベ様の痕跡が確認でき、これも秦封泥にみられる特徴と一致する。さらに、所蔵封泥のサイズであるが、欠損や乾燥前の変形により正確な計測

が困難なものも多いが、計測可能なものはおおむねデータ上の数値である二・二センチ×二・二センチ〜二・四センチ×二・四センチ大、小さいもので一・八センチ×一・八センチ〜二・一×二・一センチ大、半通印で一・二センチ×二・三センチ〜一・三センチ×二・四センチ大、小さいもので一・一センチ×一・八センチ〜一・一センチ×一・九センチ大の範囲内におさまるものである。

以上のことから、例外となる二点を除いた百五十一点について、観峰館所蔵封泥は秦封泥の指標となる特徴を備えており、秦封泥と判断することができるという結論になる。例外の二点は、それがどのような経緯で所蔵封泥に混入したか等は定かではないが、当面は秦封泥とは別物であると判断しておく。

次に、観峰館所蔵封泥が、秦封泥のなかでも相家巷封泥と同一群に属するものであるかどうかである。

まず収蔵時期の問題から考察すると、観峰館が現所蔵封泥を購入したのが一九九七年である。一方、相家巷封泥が最初に発見され、市場に流出したのが一九九五年で、出土場所が確認され、研究成果が発表されたのが一九九七年、同地で本格的な考古調査が行われたのが二〇〇〇年である。この前後に他の場所で数量三ケタにおよぶ大量の秦封泥が確認されたという報告はないことから、観峰館所蔵封泥の出土場所を相家巷とすることに問題はないのではなからうか。

さらに秦封泥の鑑定基準を考慮した場合、現在明らかに秦封泥であると断定され、公表されている秦封泥の写真・拓本・データ等は、ほぼすべて相家巷出土のものであり、秦封泥鑑定の基準も事実上これらに依拠することになる。本稿においても所蔵封泥と対比したのはすべて相家巷封泥の写真・拓本・データであり、諸事象、特に印文にみられる官職名について、両者の間にきわめて高い一致率が認められることは、とりもなおさず所蔵封泥が相家巷封泥群に属することを示唆しているよう。

以上から、観峰館所蔵封泥は相家巷から出土したものであると断じてよいと考えるのである。

では最後に、根本的な問題として、観峰館所蔵封泥が贗物であるという可能性はないのであろうか。近年、中国骨董界における贗物の多さは周知のことであろうが、筆者は、既述の時期的問題と、相家巷封泥との高い一致率から鑑みて、その可能性は限りなく低いと考える。それは、一九九五年の発見から一九九七年の購入までの二

印文	点数	印文	点数
右丞相印	1	私官丞印	1
上寝	1	中官丞印	3
郎中丞印	2	中府丞印	1
南宮郎丞	1	中羞丞印	4
公車司馬丞	1	北宮宦丞	2
右厩丞印	1	属邦工室	1
小厩丞印	1	華陽丞印	1
中厩丞印	5	安臺丞印	7
中厩馬府	1	咸陽亭丞	1
郡左邸印	4	咸陽丞印	4
郡右邸印	12	藍田丞印	2
内官丞印	8	廢丘丞印	1
泰倉丞印	1	左譽桃丞	1
少府工丞	2	募人丞印	1
泰官丞印	1	恒段	2
左樂丞印	1	□厩丞印	1
居室丞印	4	□厩□印	1
左司空丞	6	□車丞印	1
宮司空印	2	中車□丞	1
宮司空丞	7	郡□邸印	2
御府之印	1	□右邸印	1
御府丞印	7	左□空□	1
宦者丞印	10	□章宦丞	1
高章宦丞	8	□章□丞	1
御羞丞印	2	□匠丞印	1
泰匠丞印	3	□臺□印	1
池室之印	1	□氏□印	1
寺工丞印	1	□官丞印	1
寺迅	1	□□丞印	1
寺迅丞印	7	□□□丞	2
都船丞印	1		

年間には、まだ相家巷封泥に関する充分な情報は公開されておらず、そもそも一九九七年段階でさえ公表されていたのは、今日のように全面的かつ鮮明な写真等ではなく、一部の不鮮明な拓本にすぎなかったからである。そのような状況下でこれほど大量かつ精巧な贗物を制作できたかは疑問である。今回、現物を直接手に取り、肉眼で調査を行った筆者の感想を交えていうならば、正確な封泥の偽造、特に封泥裏面の複雑な痕跡の再現は、写真等の情報や諸家の研究成果など多くの資料がそろっていたとしても容易ではないとおもわれる。